

第4章

みやぎの 施設・建造物

*Facilities,
Buildings*

- 三居沢は日本の水力発電の発祥の地で今も現役で発電を続けている！
- 登米市の警察資料館は日本で唯一の「警察資料館」である
- 東北大学植物園は、植物園として日本で初めて国の天然記念物に指定
- 気仙沼シャークミュージアムは日本唯一の「サメの博物館」である
- 青柳文庫は、日本初の公開図書館であると言われている
- 白石城は木造復元最大級、復元に「野面積み」の石垣を採用した初めての城
- 旧石巻ハリストス正教会堂は国内最古の現存する木造教会である
- 東北学院の「デフォレスト館」は国内現存最古の宣教師住宅である
- 宮城県は日本一「猫」の石碑や神社が多い！特に丸森町は猫の碑がいっぱい！
- 広瀬橋（旧橋）は道路橋として、日本最初の鉄筋コンクリート橋である
- 鳴子ダムは日本人のみの手による日本初のアーチダムである
- 大倉ダムは日本で唯一のダブルアーチダムで仙塩地区の都市用水の水がめ
- 水産業の振興に重要な「特定第3種漁港」県内に3漁港は全国最多！
- 塩竈みなと祭の御座船「鳳凰丸」「龍鳳丸」は、日本唯一の祭り専用船！
- 青葉区のれんが下水道は、国内で最初に旧下水道法による事業認可を取得！

三居沢は日本の水力発電の発祥の地で 今も現役で発電を続けている！

みやぎの施設・建造物

発祥の地

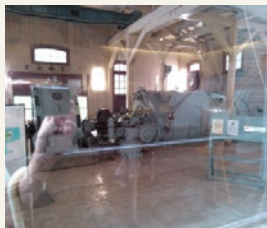
仙台市

現在の三居沢発電所



外観（国指定有形文化財）

発電所内部



出力 1000kw

水力発電発祥之地



記念碑

施設・建造物

2018年(平成30年)は、東北に電灯が灯って130年の記念の年である！

- ①1888年(明治21年)7月1日、三居沢にある宮城紡績会社の工場内50灯と烏崎山のアーフ灯1灯に日本初の水力発電による明かりが灯った。からすぎきやま
- ②宮城紡績会社社長の菅克復が、東京の三吉電機製造会社（東芝の前身）から5kwの発電機を購入し、紡績工場の水車に取り付けて発電した。明かりが灯ると周辺住民の間で「キツネ火だ」と話題になり、警官も駆けつける大騒ぎとなったそうである。
- ③1894年(明治27年)7月、仙台電灯株式会社が設立され、仙台市内の家庭や店頭に365灯の明かりが灯った。設立者の一人、伊藤清次郎は、後に合併により誕生した宮城紡績電灯株式会社の社長となり、三居沢発電所の発展に大きく貢献した。
- ④三居沢は、「電気化学工業発祥の地」とも呼ばれている。宮城紡績電灯株式会社の技師長であった藤山常一が、1902年(明治35年)に余剰電力を使って、日本初のカーバイド(窒素肥料などに使われる)製造に成功したことによるものである。
- ⑤1910年(明治43年)に、出力1,000kwの現在の三居沢発電所が完成した。建物の設計は、旧登米高等尋常小学校（現教育資料館）を設計・監督を行った山添喜三郎である。この発電所は、1999年(平成11年)に国の登録有形文化財となった。



現在の三居沢発電所

三居沢発電所は、1951年(昭和26年)に東北電力に継承され、今も現役で稼働している全国でもまれな市街地にある発電所である。出力1,000kwの水力発電所と配電用変電所として、変圧器出力30,000kVAの能力を持つ。遠隔監視・制御されているため、無人の発電所である。建物側面が大きなガラス張りで中の様子を見学できるほか、建物の裏手に回り、水が下ってくる鉄管を間近に見ることができる。



三居沢電気百年館



- 発電所の歴史を学べる施設として、東北電力株式会社が発電所の隣に『三居沢電気百年館』を運営している。
- 1937年(昭和12年)パリ万博に描かれた「電気の精」(Raoul Dufy作)のリトグラフ(現物はパリ近代美術館に保存)が展示されている。
- 三居沢地区周辺の住民有志が2016年(平成28年)に明治以降の地区の歴史を大型パネル5枚にまとめ三居沢電気百年館に寄贈した。

- ① 1888年(明治21年)に初めて水力発電による明かりが灯ったときに使用された5kw直流発電機と同型のもので展示されている。
- ② 前述した菅克復らのパネル展示もあり、三居沢発電所の歴史に関わった人を含め、たっぷり学ぶことができる。
- ③ タレス、アルキメデス、エジソンなどが登場し、電気の歴史が淡い色調で描かれた素敵な絵である。

登米市の警察資料館は 日本で唯一の「警察資料館」である

みやぎの施設・建造物

国内唯一

登米市

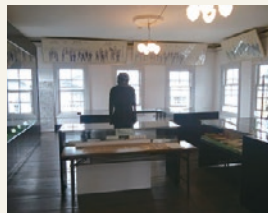
警察資料館外観



木造の留置場



展示(制服・装備など)



施設・建造物

登米の地は、明治維新後、土浦藩取締地、登米県、一関県、水沢県、磐井県と目まぐるしく移り変わり、1876年(明治9年)に宮城県に合併された。**「みやぎの明治村」**と呼ばれるこのエリアには、**水沢県庁記念館**、**教育資料館**(旧登米高等尋常小学校)など、当時を偲ばせる建物が立ち並び、その一角に**警察資料館**がある。1889年(明治22年)に建てられ、1968年(昭和43年)まで**登米警察署として使われていた建物**で、1987年(昭和62年)からは**日本唯一の「警察資料館」**として一般公開されている。設計は、旧登米高等尋常小学校も手掛けた山添喜三郎氏で、木造2階建て下見板張り、白ペンキ塗り寄棟瓦葺きで、突き出した玄関の二階はバルコニーになっている。館内では、木造の留置場、警察官の制服や装備・辞令等が展示されている。1988年(昭和63年)に県指定文化財に指定され、一目惚れしそうな擬洋風建築で、明治時代を偲ばせる貴重な文化遺産である。



水沢県庁記念館、教育資料館

2つとも歴史ある建物として凜とした空気が流れており、雨の日には、玄昌石が黒々と輝き、風情がある。油麩丼、はっと汁、うなぎなどの名物を味わいながら、**「みやぎの明治村」**を堪能できる。



水沢県庁記念館



教育資料館



東京の京橋にポリスミュージアム「警察博物館」

日本の警察の始まりから現代までの歴史的な資料を展示し、現在の警視庁の活動について紹介する、来て、見て、学び、体験できる博物館である。

東北大学植物園は、植物園として 日本で初めて国の天然記念物に指定

みやぎの施設・建造物

日本初

仙台市

植物園入口



緑と茶色の植物園カラー

歩きやすい園内



夏に行っても涼しい

ロックガーデン

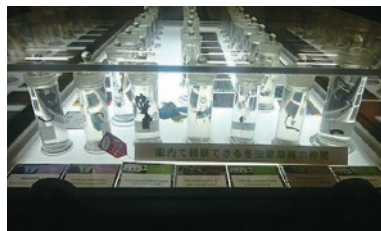
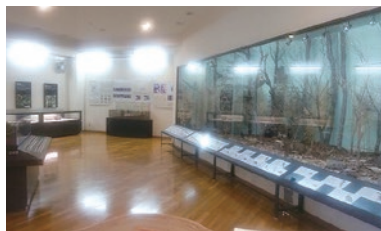


東北大学植物園は、1958年（昭和33年）に東北大学が青葉山を利用して設立した自然植物園で、面積は約52万㎡ある。仙台城背後の**御裏林**として、江戸時代には仙台藩の厳重な監視下に置かれていた。また、明治維新後は陸軍、第二次世界大戦後は進駐軍に管理され、一般市民の立入が制限されていたため、**大都市圏では稀に見る貴重な自然**が残されていた。**仙台地方の丘陵地の自然植生であるモミの美林**が残されているほか、学術的に希少な動植物をはじめ、リス・タヌキ・カモシカなどの野生動物に出会えることもある。このように貴重な森林であることが認められ、1972年（昭和47年）**植物園としては初めて国の天然記念物に指定**された。

【様々なイベント企画】「青葉山植物園ガイドブック」を持って！

- 植物園ガイドウォークの開催
- 自然史講座などの各種講座
- 15のモデルコースの紹介
- 植物園の日：5月4日 無料入園

東北大学川内キャンパスに隣接する植物園本館には、園内の自生植物の目録や標本、昆虫の標本、冬虫夏草コレクション、青葉山の生態系の解説などの展示が充実している。



気仙沼シャークミュージアムは 国内唯一の「サメの博物館」である

みやぎの施設・建造物

国内唯一

気仙沼市

気仙沼海の市



シャークミュージアム



氷の水族館



(気仙沼「海の市」/シャークミュージアム提供)



気仙沼は、サメとともに歩んできた「サメの町」でもある。水揚げされるサメは国内全体の約8割以上を占め、「サメの水揚げ日本一」、「フカヒレの生産日本一」の町として知られている。

「気仙沼シャークミュージアム」が、**日本唯一のサメの博物館**として開館したのは1997年(平成9年)。東日本大震災の津波により、一時閉館を余儀なくされたが、震災から3年後の2014年(平成26年)、「シャークミュージアム」と「震災復興ミュージアム」の2つの顔を持つ博物館として生まれ変わった

高級食材のフカヒレが有名

サメは捨てるどころなし

サメ肉もまた、低カロリー、高タンパクの優れた食材である。「モウカの星」と呼ばれるモウカザメの心臓も産地ならではの逸品。肝臓からは肝油が取れ、骨からはコンドロイチンなどの健康食品の材料もつくられる。

食用にとどまらず、皮はかばんや財布などの皮製品の素材となり、硬くて鋭いウロコは、ヤスリやおろし金の原料になるという。市内には、サメ肉が食べられる飲食店やサメ関連商品の専門店もあるので、こちらにもぜひ足を運んでほしい。

観光物産施設「海の市」

1階には-20℃の水族館

シャークミュージアムがある「海の市」は、気仙沼市魚市場の隣にある気仙沼市観光物産施設。その1階に-20℃の氷の世界「氷の水族館」がある。氷を使用した造形、魚氷は、主に気仙沼で水揚げ、または、三陸沖に生息する多くの魚介類を港町ならではの製氷技術で凍氷したもの。氷の中から動き出し、泳ぎ回るプロジェクションマッピングなど、見どころ満載なので、ぜひ一度は訪れて体験してほしい。気仙沼市観光キャラクター「海の子ホヤぼーや」が迎えてくれる。

参考：「サメの街気仙沼構想推進協議会HP」、「気仙沼海の市 案内パンフレット」

あおやぎ

青柳文庫は、日本初の 公開図書館であると言われている

みやぎの施設・建造物

日本初

仙台市

青柳文庫標識



標識は「日本最初の公開図書館跡」

青柳文庫碑



青葉区東二番丁通りの歩道脇
「青柳文庫跡地」

日本で最初の公開図書館は青柳文庫

日本で最初の「公開図書館」は、1831年（天保2年）、江戸時代末期に仙台藩が作った「青柳文庫」と言われている。

青柳文庫は、現在の一関市出身で江戸に出て財をなした青柳文蔵あおやぎぶんぞうが、蔵書約1万冊に維持資金1000両を添えて仙台藩に寄付したことから始まり、**わが国初の公開図書館**として創設された。当時の資料によると、医学を教える医学学校南側敷地に建てられた土蔵の文庫に書籍が収蔵されていた。青柳文庫は、仙台藩によって維持運営され無料で貸出を行っていたことから、今の公共図書館に近い存在であったとも推測されている。

青柳文庫の行方

青柳文庫は明治維新後に閉鎖され、蔵書は散逸した。その後、1881年（明治14年）に本県最初の図書館として宮城書籍館が設立された際には、青柳文庫旧蔵書の一部が継承された。宮城書籍館は宮城県立図書館、宮城県図書館と改称され、1945年（昭和20年）7月の仙台空襲で館舎・蔵書が焼失したが、青柳文庫旧蔵書は疎開していたため難を免れ、現在も宮城県図書館で所蔵されている。

このほか、青柳文庫旧蔵書を所蔵している図書館として、宮城教育大学附属図書館、国立国会図書館等がある。

白石城は木造復元最大級、復元に 「野面積み」の石垣を採用した初めての城

みやぎの施設・建造物

日本初

白石市

白石城三階櫓(天守閣)と石垣



仙台藩 最南端の要衝

片倉家歴代廟所



白石城は20世紀最後の復元か 伊達62万石のもう一つの城

白石城は、城下町のシンボルとして1995年(平成7年)に三階櫓(天守閣)・大手門等が復元された美しい白壁の城。

- ①天守閣の復元で「野面積み」(※)の採用は全国でも初めて
- ②城郭建築で建築基準法第38条の特別認可は日本で初めて
- ③戦後の木造建築による完全復元天守で日本最大級を誇る。
- ④天守の高さ16.7mは前例がない。

祿高は1万8千石であるが、城の規模は10~20万石の大名という話もある。

復元は、1823年(文政6年)の図面に基づき、青森ヒバやヒノキ等の木材が大量に採用され、宮大工・石工等全国の匠約9,600人を集めた。復元費用は28億円。

※自然石: 切り出したままの石を加工しないで使う最も原始的な石垣。他には打込接・切込接有。

白石城の変遷

刈田氏居城、1591年(天正19年)秀吉奥州仕置で蒲生領・築城、1598年(慶長3年)刈田郡上杉領、1600年(慶長5年)に政宗が白石城を攻略し再び伊達領、1602年(慶長7年)初代小十郎景綱が白石城主、1615年(元和元年)景綱死去、二代重長城主、以降約260年間片倉氏が城主、1874年(明治7年)白石城解体。

白石城は一国一城令例外か

白石城は仙台藩に許された二つ目の城で、従来「一国一城の例外」と評価がされてきたが、近年の研究では、東北でも幕府から公認された城もあり、全国一律ではなく、主に西日本を対象としたものであるという。

盛岡・秋田・会津にも/なぜ二城許可かは諸説あり

参考: 白石城物語、歴史探訪ミュージアム、白石紀行、歴史の窓

旧石巻ハリストス正教会堂は 国内最古の現存する木造教会である

みやぎの施設・建造物

日本一

石巻市

被災前の教会堂



復元された教会堂



蘇った美しい姿

二度の震災で残ったのはまさに奇跡 石巻市の指定文化財（建造物）

東日本大震災の津波で大きな被害を受けた「旧石巻ハリストス正教会教会堂」は現存する木造の教会としては、国内で最古のものとして知られる。

1978年（昭和53年）の宮城県沖地震でも被災し、復旧後、**石巻市指定文化財**となった。東日本大震災では全壊を免れ、中瀬にある建物は「石ノ森萬画館」以外全て流された中で、この小さな木造の建物が現地に残ったのは奇跡だそうだ。その中瀬で復元することが決まり、2017年（平成29年）9月復元工事の起工式が行われた。建物も2.2m程かさ上げし、モルタルから創建時の漆喰塗も実現、復元総事業費は1.1億円をかけ、2018年度（平成30年度）9月に完成、2019年（令和元年）9月に一般公開を始めている。

設立の経緯

1880年（明治13年）に「聖使徒イオアン聖堂」の名称で石巻市千石町に建てられ、一時は多くの信徒を集めていた。「ハリストス」とはロシア語で「キリスト」を意味する。中瀬公園でのシンボリック的存在であった。復元方法として、可能な限り震災前の部材を用いた復元にしたという。

宮城県沖地震でも被災

1978（昭和53年）年宮城県沖地震で被災したが、石巻の若手建築業者で作る団体が現在地に移築させ、1980年（昭和55年）6月に竣工、12月末に石巻市指定有形文化財になった。今回の復元場所については議論が分かれたが、最終的には現在地に決定された。

東北学院の「デフォレスト館」は 国内現存最古の宣教師住宅である

みやぎの施設・建造物

日本一

仙台市

デフォレスト館



1934年(昭和9年)当時の様子



(学校法人東北学院提供)

施設・建造物



外国人宣教師住宅 2012年(平成24年)調査で1887年(明治20年)創建と判明

「デフォレスト館」は東北学院大土樋キャンパス(仙台市青葉区)の中にある**国内現存最古の宣教師住宅**である。2012年に国の登録有形文化財に登録され、2016年7月に「東北学院旧宣教師館」の名称で**国の重要文化財(建造物)**に指定された。日本に残る外国人宣教師住宅の最初期の事例として貴重であり、この建物が持つ歴史的価値が評価されている。木造二階建て、寄棟造(*1)鉄板葺の建物で、以前は天然スレート(*2)であった。外壁は下見板張り(*3)で、北側の玄関にアーチ状の屋根がかかる。
*1:1.4方向に傾斜する屋根面 *2:粘板岩薄を薄く割って作る瓦(雄勝が有名) *3:長い板材を用い重ね合わせ張り。

歴史的建造物の指定35年ぶり

設計・施工は地元

1887年(明治20年)、米国人宣教師の住宅として宮城県土木課宮繕技手が設計し、地元職人が建築。J.H.デフォレスト(1844年~1911年)が長く住んだ。洋風住宅として長崎や神戸などの外国人居留地で流行した米国のコロニアル様式を採用した。

デフォレストは宮城英学校(新島襄校長)に赴任

デフォレストは、1886年(明治19年)に設立された宮城英学校(新島襄校長、翌年東華学校と改称)に赴任。戦後は、布教の傍ら日米親善に尽力した。彼の死後、代々宣教師の住宅として使われ、1940年(昭和15年)に東北学院の所有となり、教員の研究所などにも利用されていたが、東日本大震災後は立入禁止となり、現在、活用策が検討されている。

参考:仙台市HP「文化財せんだい」、学校法人東北学院「東北学院の歴史」

宮城県は日本一「猫」の石碑や神社が多い！ 特に丸森町は猫の碑がいっぱい！

みやぎの施設・建造物

日本一

丸森町 他

猫を彫った石碑(猫碑)



猫の彫像



田代島の猫神社(猫神様)



田代島は海外からの観光客も多い。古くから犬を持ち込む・飼うことは禁忌。



宮城県では、レリーフ状の猫の石碑—“猫碑”が112基発見されており、**日本一の数**である。特に丸森町が74基(下表参照)と多く、最古の碑は1810年(文化7年)である。主に猫の座像が彫られている。

施設・建造物



猫碑・猫の彫像・猫神社すべてが日本一！

村田町歴史みらい館の石黒伸一郎さんの調査によると、宮城県内における猫の石碑の数は右表の通り。宮城県以外では、長野県11基、岩手県10基、福島県8基などとなっており、未発見の碑もあると考えられるが、全国的には東日本に多い傾向にある。猫碑だけでなく、**猫の彫像も13体と日本最多**であり、県外では福島県9体、岩手県2体、東京都と京都府に各1体ずつである。猫神社は石巻市の田代島が全国的に有名だが、**県内には14の猫神社があり、これも日本一**である。養蚕ほうたんの御利益を由来に持つ神社が多いが、中には大漁祈願や猫の報恩ほうおん譚によるものもある。

| 市町村 | 猫碑数 |
|------|------|
| 丸森町 | 74基 |
| 角田市 | 9基 |
| 白石市 | 3基 |
| 村田町 | 2基 |
| 蔵王町 | 1基 |
| 岩沼市 | 4基 |
| 仙台市 | 4基 |
| 亘理町 | 2基 |
| 山元町 | 1基 |
| 多賀城市 | 1基 |
| 大衡村 | 1基 |
| 大崎市 | 1基 |
| 加美町 | 1基 |
| 栗原市 | 5基 |
| 石巻市 | 2基 |
| 気仙沼市 | 1基 |
| 合計 | 112基 |



猫碑はなぜつくられたのか

石黒さんは「猫の姿や『猫神』の文字が彫られた石碑は、猫の供養や鼠よけ、猫の祟り封じ、猫の長寿祈願、繭の豊作等を願って建てられた可能性が高い」と推測している。しかし、宮城県、特に丸森町に多い理由は未だよく判っていない。石碑は、一般的に関係する団体が建立するが、猫碑は個人の場合が多い。

広瀬橋(旧橋)は道路橋として、 日本最初の鉄筋コンクリート橋である

みやぎの施設・建造物

日本初

仙台市



広瀬橋



広瀬橋に架けられた案内
1909年(明治42年)に造られた広瀬橋は、
日本で最初につくられた鉄筋コンクリート橋
と言われている。

施設・
建造物



1889年(明治22年)、煉瓦造りの橋脚の上に木と鉄で組んだ橋が架けられた。その後、老朽化により危険となったため、1909年(明治42年)に長さ127メートル、幅10メートルで架け替えられた橋が、日本最初の鉄筋コンクリート橋である。

これは車道と歩道を分離した本格的な橋で、鉄筋は八幡製鉄所、セメントは北海道セメントの製造で、工事費は当時の価格で75,000円であった。設計指導は、多くの港湾やダム設計にあたり、第6代土木学会長も務めた東京帝国大学廣井勇教授が行い、監督を明治潜穴の調査にも関わった宮城県技師・杉野茂吉が行った。橋の名称は、この時、それまでの「永町橋」に変わって「広瀬橋」とされた。

どっちが古いの

広瀬橋は、1909年(明治42年)の建設当時から日本最初の鉄筋コンクリート橋と言われてきた。

しかし、1903年(明治36年)に京都府にある琵琶湖第一疎水の第三トンネル東口にある第11号橋(幅1メートルの歩行者用の橋)が先にできていた。

そのため、広瀬橋は**道路橋として日本最初の鉄筋コンクリート橋**ということになる。



1935年(昭和10年)には、仙台市電用の軌道専用橋が広瀬橋の川上に並んでかけられ、翌年、仙台市電の長町線が開通した。その後、増大する自動車交通に対応するため、1959年(昭和34年)に2億5,000万円をかけて、幅員が倍以上となる22メートル幅の鋼桁橋に架け替えられた。

この時、市電軌道は橋の中央に入れられたが、1976年(昭和51年)の市電廃止に伴い軌道は撤去され、車道として活用されている。1992年(平成4年)には、景観整備事業によりバルコニーや旧橋をイメージした照明塔が設けられ、現在に至っている。



現在の広瀬橋(バルコニー)



旧橋を模した照明塔



江戸時代の橋姫伝説



広瀬橋の長町寄りにある『橋姫明神社』。芭蕉と曾良も永町橋を渡り城下に入った。

初めて橋が架けられたのは1668年(寛文8年)で、城下で2番目の橋であった。永町橋と呼ばれ、奥羽諸大名の参勤交代にも使われる重要な橋であったが、大雨や洪水で何度も流失し、その度に架けなおされた。

そのため、流された橋を供養するための碑を建てて祀った。

その後、広瀬川の氾濫を防ぐために若い娘が人柱になって埋められたという伝説が生まれ、橋姫供養碑も作られた。

鳴子ダムは日本人のみの手による 日本初のアーチダムである

みやぎの施設・建造物

日本初

大崎市

鳴子ダム



ダム諸元及び貯水池諸元

| | |
|---------------|-------------------------------|
| 型 式 | アーチ式コンクリートダム |
| ダ ム 湖 | 荒雄湖/北上川水系江合川 |
| 堤 高 | 94.5m/ 堤頂長215m |
| 総貯水量(※) | 50,000千m ³ |
| 工事着工 ～工事完了 | 1952年(昭和27年) ～1957年(昭和32年) |

すだれ放流と鯉の滝のぼり

(東北地方整備局鳴子ダム管理所提供)

※上流から流れ込む砂がたまる容積を含む貯水量



鳴子ダムは、**東北で初めてのアーチダム**で、さらに、**日本で初めて、日本人だけで造ったダム**として有名である。それまで日本でダムを造る場合は、外国から技術者を呼んで、設計や工事をする際にいろいろと指導を受けていた。それだけに鳴子ダムの建設には、全国から優れた日本人技術者を集めて、膨大な英文の技術資料の翻訳から始まり、コンピューターのなかった時代に、複雑を極めるダムの構造計算も相当困難であったろうと推測される。

江合川沿いの町は、歴史上も大きな災害に見舞われ、特に1947年(昭和22年)のカスリン台風、1948年(昭和23年)アイオン台風、1949年(昭和24年)キティ台風、そして、1950年(昭和25年)にも激しい雨で、これまでにない規模の被害を受けた。そこで国では、洪水に備えて江合川に堤防をつくるとともに、電気を起こし、田畑に水を送ることに利用できるような多目的ダムの建設を決定し、実現したものである。



「すだれ放流」と「鯉の滝のぼり」

“すだれ放流”は、1958年(昭和33年)のダム完成当初より5月の大型連休の時期に実施されている。後に鯉のぼりを飾るようになり、放流によってできたすだれに映る鯉のぼりの影が、滝を登るように見えることから、“**鯉の滝のぼり**”と呼ばれている。幅95m、高さ約80mの巨大な滝が出現し、流れ落ちる様子は、非常に迫力がある。

大倉ダムは日本で唯一のダブルアーチダムで 仙塩地区の都市用水の水がめ

みやぎの施設・建造物

国内唯一

仙台市

大倉ダム(愛称:仙台環境開発大倉ダム)



ダム諸元及び貯水池諸元

| | |
|---------------|-------------------------------|
| 型 式 | マルチプルアーチダム |
| ダ ム 湖 | 大倉湖/名取川水系大倉川 |
| 堤 高 | 82m/ 堤頂長323m |
| 総 貯 水 量 | 28,000千m ³ |
| 工事着工 ～工事完了 | 1956年(昭和33年) ～1962年(昭和37年) |

二連式のアーチダムは大倉ダムだけ!



大倉ダムは、名取川水系大倉川に建設された美しい多目的ダムである。型式は全国に2箇所しか存在しない**マルチプルアーチダム**であり、2つのアーチが連なる**ダブルアーチ式コンクリートダム**としては、**日本唯一である**。

計画は1947年(昭和22年)のカスリン台風、1948年(昭和23年)のアイオン台風、1950年(昭和25年)の熱帯性低気圧(ヘレン台風)による出水と相次ぐ大洪水に見舞われたこと、戦後の仙台市・塩甕市の人口増加に伴う上水道用水の確保、仙塩工業地帯への工業用水の補給等から検討された。大倉ダムは、特定多目的ダム法に基づいた多目的ダムとして、旧建設省直轄事業として工事が行われ、**約28億円の事業費をかけて4年**で完成した。1970年(昭和45年)に完成した釜房ダムとともに、仙塩地区の上水道源として、その目的を十分に果たしている。



発電にも大倉ダムの水を利用

大倉ダムでは、東北電力株式会社が上水道、工業用水、かんがい用水などの放流水を利用して、水力発電を行っている。ダム建設に伴い旧発電所を廃止し、1962年(昭和37年)5月に新大倉発電所が建設された。発電に使用した水は大倉川に放流され、各利水者が上水道用水、工業用水、既得かんがい用水として使用している。

水産業の振興に重要な「特定第3種漁港」 県内に3漁港は全国最多！

みやぎの施設・建造物

日本一

石巻市、塩釜市、気仙沼市

石巻漁港



(113千トン、208億円)

塩釜漁港



(23千トン、107億円)

気仙沼漁港



(74千トン、189億円)

(上記の数値は魚市場の水揚げ数量及び水揚げ金額 (2017年))

施設・建造物



特定第3種漁港とは、利用範囲が全国的な漁港のうち、水産業の振興のために特に重要であるとして政令で定められた漁港である。2018年(平成30年)4月1日現在、全国には2,823の指定漁港(うち宮城県142)があるが、このうち**特定第3種漁港**はわずか13漁港。**宮城県内には全国最多の3漁港(気仙沼、石巻、塩釜)**がある。

これらの漁港には、地元だけではなく、全国各地から漁船が入港し、多種多様な魚介類が水揚げされている。

漁港の種類と形態

| | |
|------------|--|
| 第1種漁港 | 利用範囲が地元の漁業を主とするもの(宮城県:115港) |
| 第2種漁港 | 利用範囲が第1種漁港よりも広く、第3種漁港に属しないもの(宮城県:21港) |
| 第3種漁港 | 利用範囲が全国的なもの(宮城県:2港) |
| 第4種漁港 | 離島その他辺地にあつて漁場の開発又は漁港の避難上特に必要なもの(宮城県:1港) |
| 特定第3種漁港の分布 | 八戸(青森)、 気仙沼(宮城) 、 石巻(宮城) 、 塩釜(宮城) 、銚子(千葉)、三崎(神奈川)、焼津(静岡)、境(鳥取)、浜田(島根)、下関(山口)、博多(福岡)、長崎(長崎)、枕崎(鹿児島)…………… 複数あるのは宮城だけ |



宮城県では、県内で獲れるおいしい水産物や水産加工品を県民にもっともっと知ってもらい、食べてもらおうと、2014年に**毎月第3水曜日を「みやぎ水産の日」**と定めた。水曜日の「すい」と第3の「さん」という読み方にちなんだこの日には、県内各地でPR活動などが行われる。**宮城の魚は新鮮でうまいよ!!**

塩竈みなと祭の御座船「鳳凰丸」「龍鳳丸」は、 日本唯一の祭り専用船！

みやぎの施設・建造物

国内唯一

塩竈市

鳳凰丸



鹽竈神社の神輿を奉安する御座船。1948年（昭和23年）の第一回みなと祭より海上渡御を行う。現在は二代目で1965年（昭和40年）より就航。伊達家の松島湾内遊覧のための御用船が原点といわれる。

龍鳳丸



志波彦神社の神輿を奉安する御座船。1964年（昭和39年）水産業界が新魚市場の開設を記念し奉献したものの。辰年にちなんで龍頭があしらわれた。

施設・建造物

塩竈みなと祭

- 毎年、塩竈市にて7月第三月曜日（海の日）に開催される祭り。
- 「日本三大船祭」の一つで、本祭では、志波彦神社、鹽竈神社の御神輿を奉安した御座船「龍鳳丸」「鳳凰丸」が、約100隻に及び大小の供奉船を従えて日本三景松島湾を巡幸する。
- 2006年（平成18年）、水産庁から「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選」に認定、2014年（平成26年）「ふるさとイベント大賞内閣総理大臣賞（大賞）」受賞。

コラム

塩竈みなと祭のここがすごい！

- 第一回開催は戦後間もない昭和23年。初代鳳凰丸が、現在と同じく、五色の吹き流しをなびかせ、供奉船数十隻を伴って海上渡御を行った。
- 鹽竈神社、志波彦神社の大神輿は、ほぼ同寸同型で重さは1トン！漆塗の色から「志波彦様の赤神輿」「鹽竈様の黒神輿」とも呼ばれる。この大神輿が、表坂202段の急こう配の階段を下る様子は圧巻である。
- 昭和35年に起きたチリ地震、昭和53年の宮城県沖地震、そして、東日本大震災で被害を受け、規模縮小や一部行事の中止があったものの、一度も中止になることなく現在まで続いている。

青葉区のれんが下水道は、国内で最初に 旧下水道法による事業認可を取得！

みやぎの施設・建造物

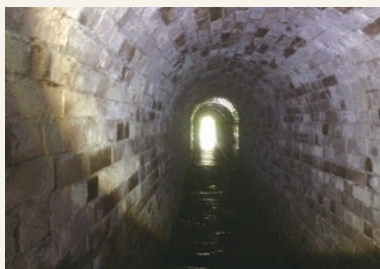
日本初

仙台市

下水道施設入口



下水道内部



(仙台市建設局提供)

日本初の旧下水道法による事業認可の下水道

仙台市の下水道事業は、1899年(明治32年)に近代的下水道工事としては東京、大阪に次いで全国で3番目に着手され、1902年(明治35年)、**全国で初めて旧下水道法築造認可を取得し、1903年(明治36年)に管理規定も制定**された。設計を指導したのは、仙台市出身で、日本の下水道技術の第一人者だった、東京帝国大学の中島鋭治教授である。1900年(明治33年)に築造された「煉瓦造りの下水道」は今も現役で、2010年(平成22年)には**土木学会推奨土木遺産に認定**されている。その下水道管3ヶ所は

- | | | | |
|--------------------------------|----------|---------|------|
| (1) (明治33年)「 矩形煉瓦下水道 」 | 長さ 約500m | 片平ほか | |
| (2) (明治33年)「 馬蹄形煉瓦下水道 」 | 長さ 約545m | 桜丘公園下ほか | |
| (3) (明治36年)「 卵形煉瓦下水道 」 | 長さ 約291m | 一番町ほか | である。 |

映画『ゴールデンランパー』に登場する下水道

仙台市在住の作家、伊坂幸太郎さん原作の映画に、**馬蹄形煉瓦下水道の中を通るシーンが登場**する。

下水道の見学施設が西公園に！

2016年(平成28年)から、「杜の都れんが下水道洞窟」として馬蹄形煉瓦下水道が一般公開されている。地上に設置されたのぞき窓から常時見学できるほか、事前予約すれば、地下施設も見学可能。



見学施設の断面図(仙台市のHPより)